

わたくしたちは今後、zymogen granule, microsome, mitochondria における ^{65}Zn 親和性のある fraction を追求し、亜鉛化合物を開発したいと考えている。

質問： 片山健志（熊本・放射線科）

1. 投与量は？
2. Tracr 実験であるから、 $0.05-0.1-0.2\mu\text{c/g}$ でよくはないだろうか。
3. 分割の点は別であるが、distribution はわれわれも北海道の学会？で発表したからご覧願いたい。

60. Raolein による膵臓機能検査

片山健志, ○齊藤 実
(熊本大学・放射線)

われわれは RISA を用いて膵臓機能検査法を実施中であるが、raolein を用いて予備実験的に同様の検討を行った。すなわち、約 100g のラッチを用いて剔膵を行ない、raolein を経口的に投与、経時的に股静脈より採血して測定を行ない、 ^{131}I 血中濃度を測定した。その結果は剔膵ラッチ群では対照群に比べて ^{131}I の血中濃度の低減をきたすことが認められた。

61. 膵疾患と ^{131}I -トリオレイン試験 ならびに併用パンクレアチンの 影響について

山形徹一, 石川 誠
正宗 研, ○高橋恒男
(東北大学・山形内科)

われわれは日常消化吸収試験の 1 つとして行なっている ^{131}I -トリオレイン試験について、各種膵疾患における成績とパンクレアチン併用の場合の併用量とその影響について報告した。

各種膵疾患において、 ^{131}I -トリオレイン血中濃度が 7.5% 以下の異常値を示したものは、慢性膵炎では 16 例中 1 例、膵癌では 6 例中 4 例、膵切除 1 例であり、便中排泄率で 5% 以上の異常値を示したものは、慢性膵炎 16 例中 2 例、膵癌 6 例全例、膵切除 1 例であった。

セクレチン試験を施行したのものについて、リパーゼ量

との関係を見ると、リパーゼ量が 140u/kg 以下の異常値を示したものの 16 例のうち、トリオレイン異常便中排泄率を示したものは 4 例であった。逆に正常リパーゼ量を示したものの 4 例のうち 1 例はトリオレイン異常便中排泄率を示した。

^{131}I -トリオレイン吸収率は、われわれの膵疾患では、化学的バランススタディの脂肪吸収率と有意の正の相関を示した ($p < 0.001$)。

膵嚢腫のため膵切除後、 ^{131}I -トリオレイン便中排泄率が 90.8% を示した重症膵不全例で、パンクレアチン 1g 3 分併用では便中排泄率は 78.8%、パンクレアチン 40g 3 分併用では 34.9% までの改善をみた。しかるに、慢性膵炎で便中排泄率 5.9% を示した軽症例では、パンクレアチン 1g 3 分併用で 3.2% と正常域までの改善をみた。

膵性 malabsorption の診断法として、従来パンクレアチン投与により症状、消化吸収の改善の有無をみる治療診断法がある。慢性膵炎 2 例、膵切除 1 例、胃切除 1 例で、パンクレアチン 1 回量 0.3~1.0g の併用のもとにトリオレイン試験を行なうと、膵疾患の 3 例ではトリオレイン便中排泄率の改善を認めた。しかし、トリオレイン吸収率の異常が極めて軽度の場合には、その変化が誤差範囲にあることも考えられるので、軽度の膵性 Malabsorption の診断に用いるにはなお検討を要するものと思われる。

質問： 古本啓一（日本歯大）

^{131}I -triolein を予め体外で 37°C 位で pancreatin を加え、incubate、その吸収性を検査されたことはないか。

答弁： 高橋恒男（東北大・山形内科）

^{131}I -トリオレインを自分では予め体外でパンクレアチンとともに incubate したものはとくに用いていない。

答弁： 石川 誠（東北大・山形内科）

トリオレインの水解物がオレイン酸であると思うが、膵疾患の診断に ^{131}I -トリオレインと ^{131}I -オレイン酸との 2 種のアイソトープを用いる代りに ^{131}I -トリオレインにパンクレアチンを併用して吸収試験を行ない、 ^{131}I -トリオレイン一種のみで膵疾患の診断が可能ではないかというのが、われわれがパンクレアチン併用トリオレイン試験を試みた主旨である。

*

*

*